

高鷲南校区の小中一貫教育

～わくわくランドを通して～

羽曳野市立高鷲南小学校 高橋 規

1. はじめに

高鷲南中学校区では、ここ数年、「わくわくランド」という教室を開催している。夏休みに2回行われるこの教室では、高鷲南小学校、恵我之荘小学校、高鷲南中学校の児童が集まり、工作遊びや調理実習を行っている。

元々、「一人ひとりの個性を大切にしながら、子どもたちに社会性を楽しく身につけてもらうきっかけになれば」という思いからわくわくランドは始まっており、人と上手く関われない児童に、以下の力を身につけさせるのを目的としている。

- ① 自分で物事を決定できる力
- ② 人とうまく付き合うことができる力
- ③ 自分の感情コントロールする力
- ④ ストレスを上手に解消する力
- ⑤ 自分の得意とするところと苦手なところを知る力

わくわくランドは、支援が必要な児童に参加を絞っておらず、障がいのありなしや支援が必要の有無に関係なく参加を募っている。どの児童にも広く人間関係力を育成する考えで行っている。

また、わくわくランドは、小学校と中学校への繋がりを作るよい機会にもなっている。わくわくランドでは、中学生になった時、スムーズに中学校生活がスタートできるきっかけになればという思いもある。

2. 1回目（ゲーム・工作）

8月5日に高鷲南中学校で行った。15人の児童が参加した。小学校や中学校からも多くの教員が参加し、大人数で盛り上がった。

① 自己紹介ゲーム

班で輪になって行った。

自己紹介スタートの人は、左隣の人のお好きなものを何か聞く。そして、「～

が好きな〇〇さんの隣の～が好きな××です。」と続ける。

初対面となる人が多いため、打ち解けるためのアイスブレイキングとして行った。言葉に詰まる児童もいたが、しっかり自己紹介ができていた。



② 聖徳太子ゲーム

班対抗で行った。テーマに沿った言葉を班全員が思い思いに考え、一斉に言葉を使う。その中の一言が分かった人は挙手をして答え、答えられた人はその場に座る。全員が座るまで続けていく。

児童は、テーマに沿った言葉を考えるのが難しそうだった。しかし、すぐに慣れたようで、楽しそうに答えていた。

③ 「わんこ」を作ろう

タオルを丸めたり、折りたたむことで立体的な犬を作った。工作が苦手な児童も工夫ができるように、あらかじめ犬のパーツをこちらで用意し、児童に使用するパーツを選ばせた。どの児童も作業に集中しており、思い思いの作品を作っていた。

最後にグループ内で作った作品を紹介し、工夫したポイントを発表し合った。また、お互いの作品のいいところを褒め合った。自分の作品が褒められて、児童たちは嬉しそうだった。



④ 後片付け・お茶タイム・感想交流

後片付けの後、飲み物を飲んで感想を交流した。すっかり打ち解けた児童達は、積極的に交流していた。話すことが苦手な児童は、先生の助けを借りながら感想を交流していた。

交流の後、わくわくランドの感想を感想用紙に書き込んだ。好意的な感想が多く、児童が楽しんでいたことがわかった。

「自己紹介ゲーム」

- ・ 答えるのがむずかしい。(2年生)
- ・ すぐ答えるのが難しかった。はずかしかった。(5年生)
- ・ すごくはずかしかった。(5年生)
- ・ みんなの好きな食べものを聞いたから楽しかった。(5年生)

「聖徳太子ゲーム」

- ・ ごちゃまぜになってややこしかった。(5年生)
- ・ 聞き取るのがむずかしかった。(5年生)
- ・ もっとむずかしいのをかけばよかった。(5年生)
- ・ 当てるのがむずかしかった。(6年生)

「わんこ作り」

- ・ ゴージャスになりすぎた。(2年生)
- ・ ゴージャスに作れて楽しかった。(5年生)
- ・ 自分の思いどおりに作れたし、すごく楽しかった。(5年生)
- ・ たのしかったけど犬の形を作るのがむずかった。(6年生)
- ・ 両面テープをはじめて使った。(6年生)

「今日の感想」

- ・ みんなと関わってすごくよかったし、すごく楽しかった。(5年生)
- ・ 次のわくわくランドが楽しみ。(5年生)
- ・ みんなと楽しく遊んだりできてとても楽しかった。(5年生)

3. 2回目（出前パン作り教室）

8月26日に高鷲南中学校で行った。30人の児童が参加した。学校給食会より講師を招き、教師と児童がいっしょになってパン作りにチャレンジした。



① 生地を丸める

自分たちで生地を丸めた。児童は楽しそうに生地に触れていた。講師の先生の説明はとても丁寧だったが、話を聞くことが苦手な児童も何人かいたため、教師が横について手助けをした。



② 好きな形にする

丸めた生地をコッペパンの形に変えていった。また、コッペパンとは別に、自分だけのオリジナルのパンを製作した。思い思いのパンを作っている児童はとても楽しそうであり、笑顔が浮かんでいた。

自己表現が苦手で、うまく形を作れない児童も数名いたが、その児童には横についた先生が「そのままの形でも大丈夫だよ」と声をかけていった。



③ 発酵させて焼く

パン生地を発酵させて焼く間に、パンの生地作りの見学をした。普段食べているパンがどのようにできているかを、児童は興味深く観察していた



④ 試食

焼きたてもパンはとてもおいしいようで、児童は大きな口でかぶりついていました。みんな笑顔を浮かべていた。



⑤ 感想交流

最後に感想用紙に今日の感想を書き込んだ。また、パンを作ってくれている工場の方への手紙も書いた。

児童は、普段食べているパンがどのように自分たちのところに来るのかを知ることができた。感想にはパン工場の方への感謝の言葉がとても多かった。感想を書くことが苦手な児童もいたが、教師が横につくことで手助けを行った。

「感想」

- ・パンを作るのがこうなんだって知れて楽しかった。(2年生)
- ・自分で作ったパンはおいしかったです。(4年生)
- ・いろいろな形があってかわいかったです。焼きたてを食べたらとてもおい

しかったです。(5年生)

- ・家でも作ってみたいと思った。(5年生)
- ・初めてパンを作ってパンにはいろいろな材料を使っていた。(5年生)
- ・パンの生地をのばすのがむずかしかった。(6年生)
- ・家で作るよりすごくこっていたので、すごかったです。もっと作ってみたいです。(6年生)

「工場の方への手紙」

- ・いつもごくろうさまです。いつもおいしいパンをありがとう。(2年生)
- ・毎日パンを作っていたいただきありがとうございます(4年生)
- ・これからもおいしいパンを作ってください。(5年生)
- ・いつもパンを作ってくれてありがとうございます。(6年生)
- ・いつもありがとうございます。あと少しだけですが、これからもよろしくお願いします。(6年生)

4. おわりに

わくわくランドは今年度で5回目となる。回を重ねるごとに参加者が増え、参加した児童からも「楽しかった」「来年も来たい」という感想が出ている。今後も児童と地域のために活動を続けて行きたいと思っている。

自分の思いをうまく伝えられず、新しい環境にうまく適応できない児童が年々増えているように感じる。そんな児童にとって中学校という新しい環境は大きなストレスになると考える。そのストレスを少しでも和らげることができればと思う。そして、これからも小学校と中学校を繋ぐ架け橋であり続けたいと考えている。